

一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の数値目標の達成状況について

【指標No.1】 総費用

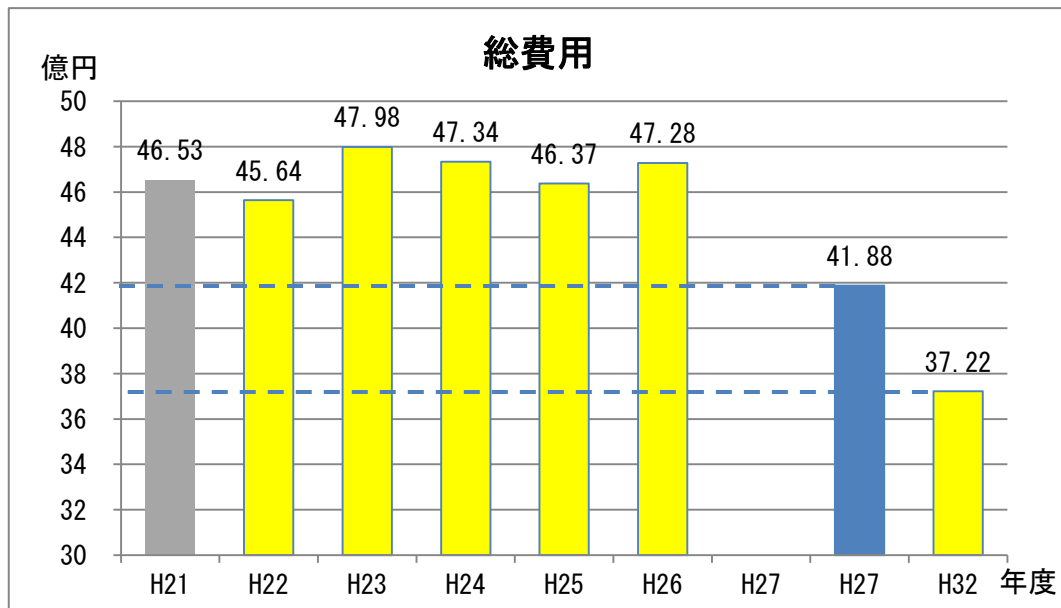
(1) 実績と数値目標

(単位：億円)

		実績	基準値・目標値との比較		
			H21	H27	H32
基準値・目標値		-	46.53	41.88	37.22
実績	H22	45.64	△0.89	3.76	8.42
	H23	47.98	1.45	6.10	10.76
	H24	47.34	0.81	5.46	10.12
	H25	46.37	△0.16	4.49	9.15
	H26	47.28	0.75	5.40	10.06
	H27	※ 平成 27 年度実績は H28. 12 月頃に確定			

※ 改定後の基本計画における H32 年度目標値…30.82 億円

(改定後の目標値は、施設整備に関する減価償却費を除く。)



(2) 状況分析

今後は、焼却施設の延命化に係る費用の増加が見込まれることから、総費用も増加することが見込まれます。

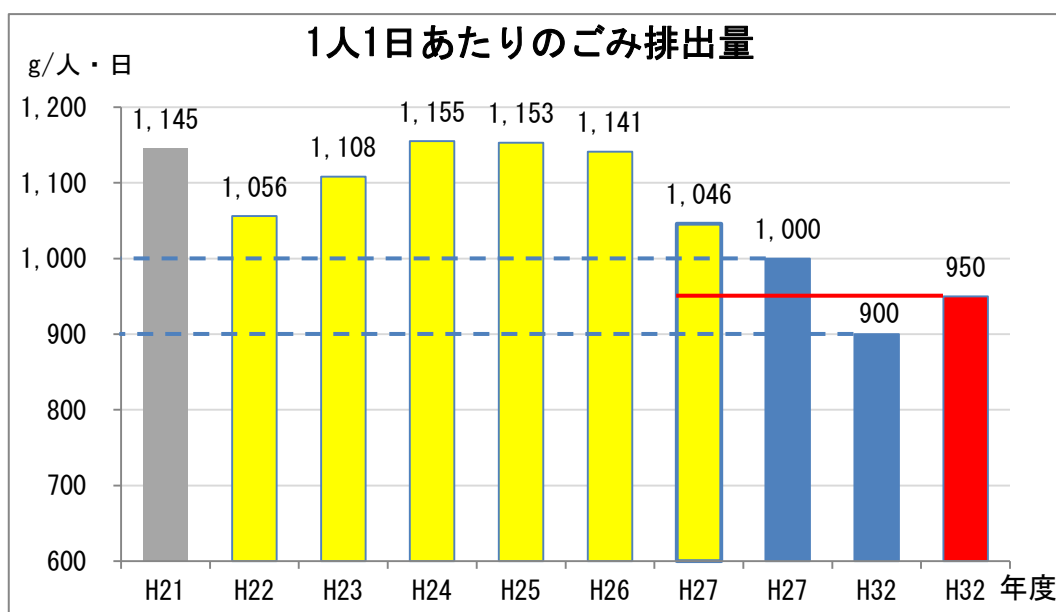
【指標No.2】 1人1日あたりのごみ排出量

(1) 実績と数値目標

(単位:g/人・日)

		実績	基準値・目標値との比較		
			H21	H27	H32
基準値・目標値		-	1,145	1,000	900
実績	H22	1,056	△89	56	156
	H23	1,108	△37	108	208
	H24	1,155	10	155	255
	H25	1,153	8	153	253
	H26	1,141	△4	141	241
	H27	1,046	△99	46	146

※ 改定後の基本計画における H32 年度目標値…950g/人・日



(2) 状況分析

平成 27 年度の実績は、目標値を 46g/人・日超過し、達成することができませんでした。

平成 27 年度に国勢調査が行われ、現住人口に避難者等が含まれたことにより、平成 26 年度と比較すると、95g/人・日 (約 8.3%) 減少しております。

また、平成 26 年度の現住人口を、避難者等を含めた実勢人口に置換えて算出した場合、1,067g/人・日となり、21g/人・日減少したことになります。

改定後の基本計画に掲げる平成 32 年度の目標を達成するためには、この減少率を維持する必要があることから、これまで以上に、ごみの発生・排出抑制を図る必要があります。

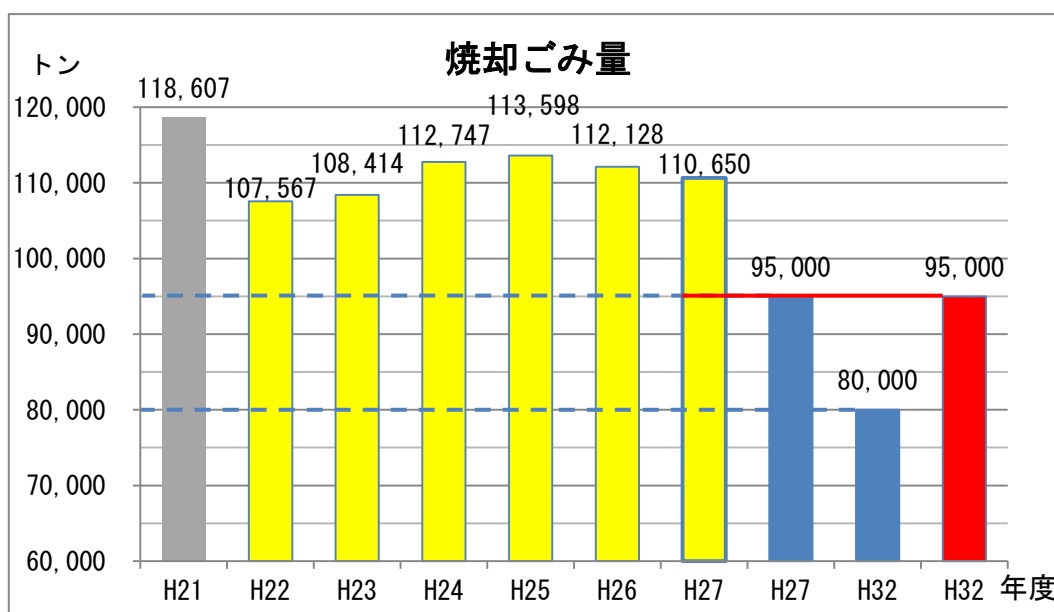
【指標No.3】 焼却ごみ量

(1) 実績と数値目標

(単位：トン)

		実績	基準値・目標値との比較		
			H21	H27	H32
基準値・目標値		-	118,607	95,000	80,000
実績	H22	107,567	△11,040	12,567	27,567
	H23	108,414	△10,193	13,414	28,414
	H24	112,747	△5,860	17,747	32,747
	H25	113,598	△5,009	18,598	33,598
	H26	112,128	△6,479	17,128	32,128
	H27	110,650	△7,957	15,650	30,650

※ 改定後の基本計画における H32 年度目標値…95,000 トン/年



(2) 状況分析

平成 27 年度の実績は、目標値を 15,650 トン超過し、達成することができませんでした。

改定後の基本計画に掲げる平成 32 年度の目標をするためには、1 割以上削減する必要があることから、適正分別による混入ごみの減少や、生ごみの水切りなどによる減量努力によって、焼却ごみの発生・排出抑制を図ります。

また、焼却ごみ量は、人口動向に大きく左右されることから、少子高齢化による人口減少や、避難者の移住や帰還などの動向を注視し、実情に合った減量施策等を展開する必要があります。

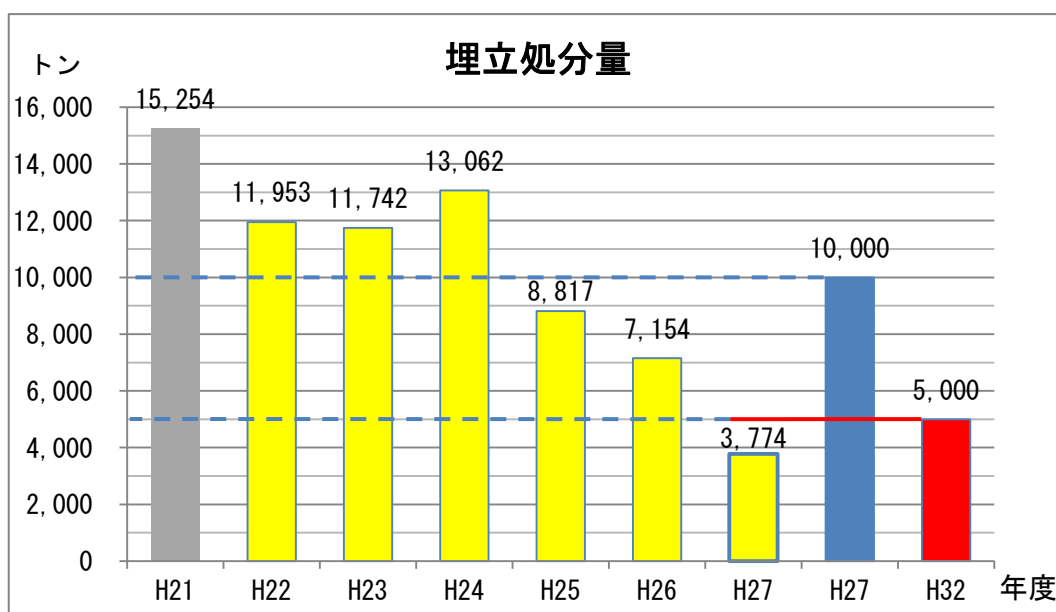
【指標No.4】埋立処分量

(1) 実績と数値目標

(単位：トン)

		実績	基準値・目標値との比較		
			H21	H27	H32
基準値・目標値		-	15,254	10,000	5,000
実績	H22	11,953	△3,301	1,953	6,953
	H23	11,742	△3,512	1,742	6,742
	H24	13,062	△2,192	3,062	8,062
	H25	8,817	△6,437	△1,183	3,817
	H26	7,154	△8,100	△2,846	2,154
	H27	3,774	△11,480	△6,226	△1,226

※ 改定後の基本計画における H32 年度目標値…5,000 トン/年



(2) 状況分析

平成 27 年度の実績は、目標値を達成しました。

現在、飛灰の一部を施設内に 2,557 トン仮置きしておりますが、それを含めても、目標を達成したことになります。

改定後の基本計画に掲げる平成 32 年度の目標をするためには、ごみ焼却施設から発生する主灰及び飛灰の再資源化量の拡大を図り、直接埋立てているものの再資源化を検討する必要があります。

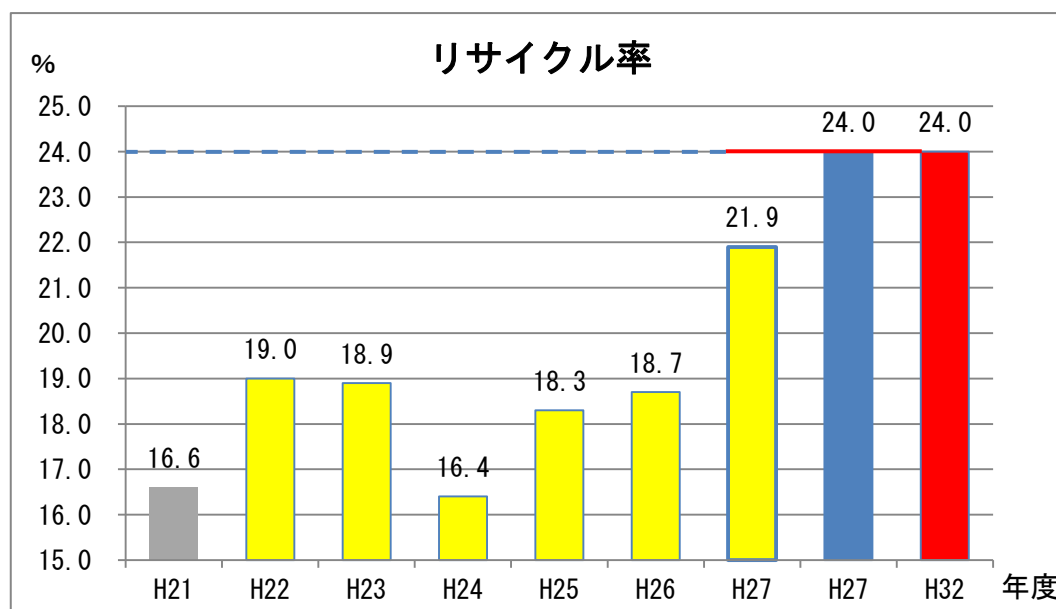
【指標No.5】リサイクル率

(1) 実績と数値目標

(単位：%)

		実績	基準値・目標値との比較		
			H21	H27	H32
基準値・目標値		-	16.6	24.0	24.0
実績	H22	19.0	2.4	△5.0	△5.0
	H23	18.9	2.3	△5.1	△5.1
	H24	16.4	△0.2	△7.6	△7.6
	H25	18.3	1.7	△5.7	△5.7
	H26	18.7	2.1	△5.3	△5.3
	H27	21.9	5.3	△2.1	△2.1

※改定後の基本計画における H32 年度目標値…2.4%以上



(2) 状況分析

平成 27 年度の実績は、目標値に 2.1 ポイント及ばず、達成できませんでした。

しかし、主灰及び飛灰の再資源化量を拡大したことで、平成 26 年度と比較すると大幅に上昇しております。

改定後の基本計画に掲げる平成 32 年度の目標をするためには、今後も主灰及び飛灰の安定した再資源化を図りながら、ごみの発生・排出抑制と分別徹底を図る必要があります。